

平成 21 年 2 月 6 日（金）

温江遺跡関係者説明会資料



調査場所 与謝郡与謝野町加悦

調査期間 平成 20 年 11 月 25 日～平成 21 年 2 月 13 日（予定）

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

はじめに

温江遺跡は、加悦谷のほぼ中央部、東から西に張り出す丘陵の上にあります。

176 号バイパスの建設時に発掘調査を実施したところ、弥生時代後期、古墳時代および平安時代の集落が確認されました。

今回、府道温江加悦線の改良事業に伴って、176 号バイパスの西側を発掘調査しました。

今回の調査成果

調査は、道路を拡幅する幅約 3 m を総長 250m の間に、8 本のトレンチを設けて、計 110m にわたって調査を実施しました。

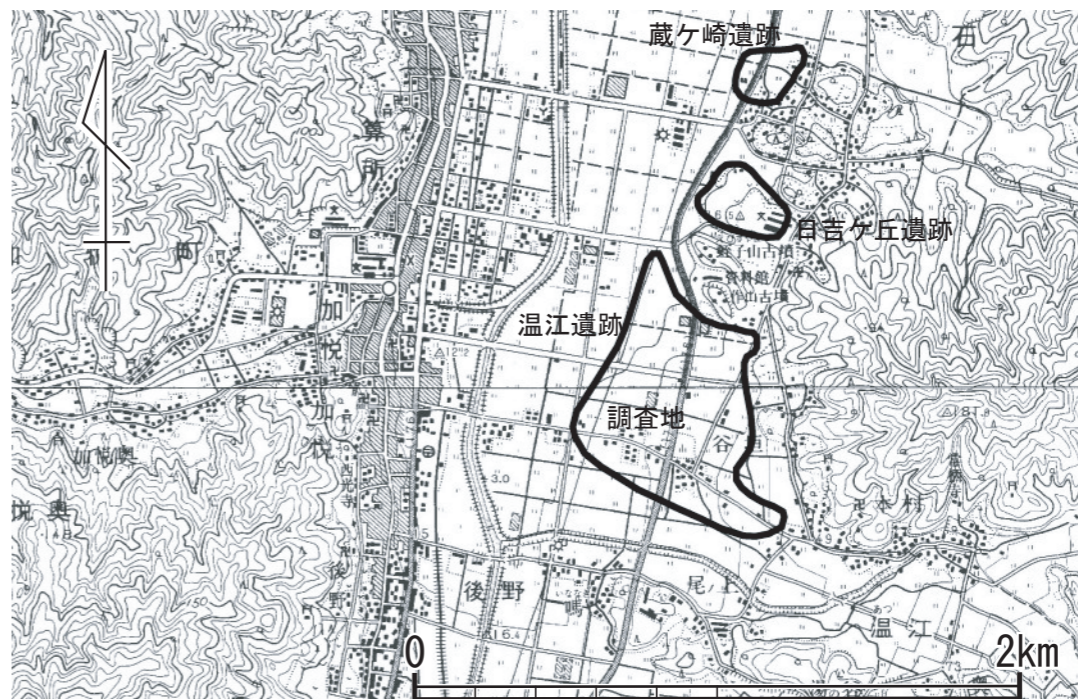
3 トレンチと 7 トレンチで、南北方向の大溝を検出しました。溝の規模は、幅 2 m 弱、深さ 1.1～1.2m で、溝の断面形状は V 字形となります。東の溝と北の溝との間は、約 100m を測ります。内部からは弥生時代前期（およそ 2,400 年前）の土器が大量に出土しました。大溝と大溝の間にあたる 4～6 トレンチでは、多くのピット・土坑を検出しました。これらは出土遺物から、弥生時代前期を中心とするものと判断されます。特に、7 トレンチでは、同時期の円形竪穴式住居跡 1 棟を検出しました。また、5・6 トレンチでは弥生時代後期の竪穴式住居跡 1 棟、時期不明の竪穴式住居跡 1 棟

を検出しました。

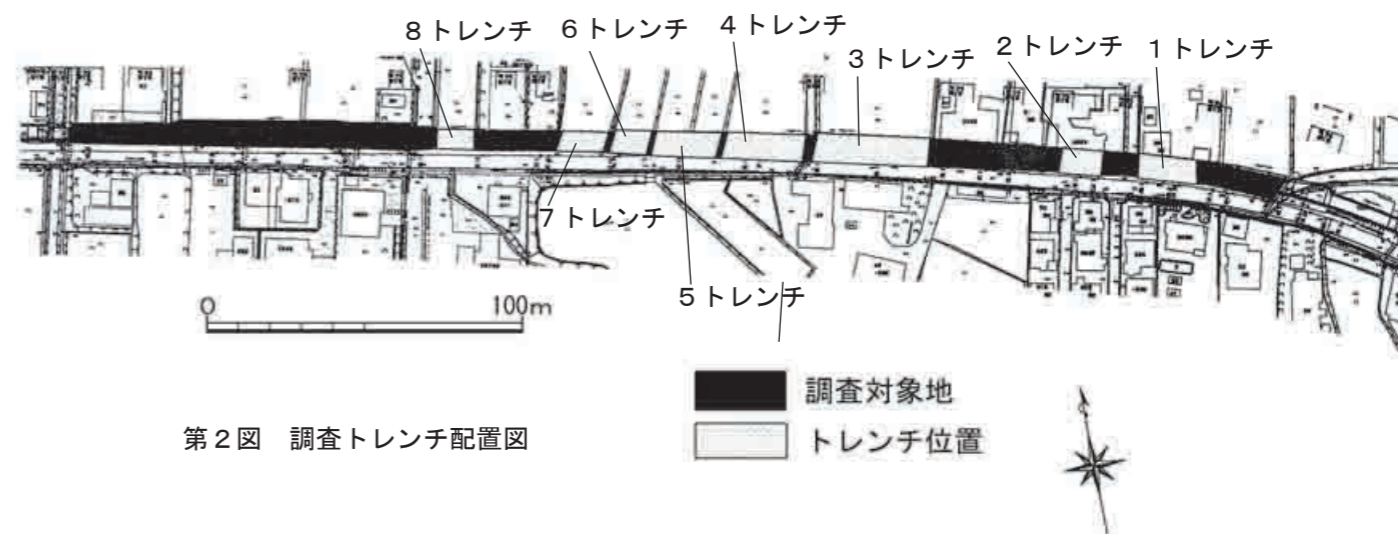
1・2 トレンチでは、流路内で堆積した土砂を確認しました。8 トレンチでは顕著な遺構・遺物を確認できませんでしたが、丘陵上の土砂が堆積しているのを確認しました。

今回の調査で明らかになったこと

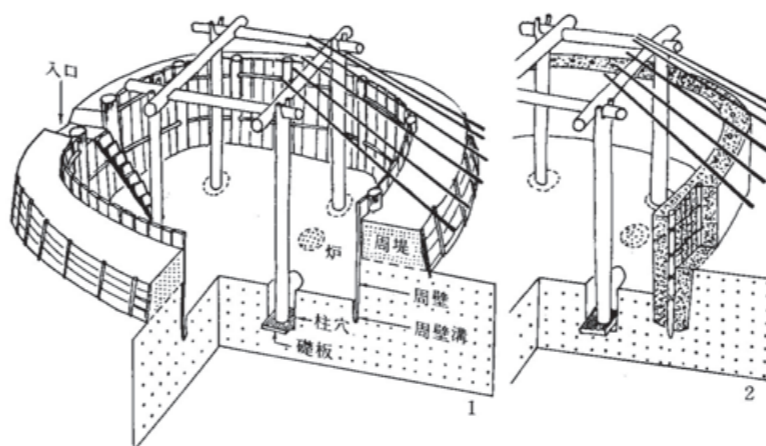
- ①弥生時代前期の集落跡を確認しました。この集落の東辺と西辺には大溝があることから、集落の周囲に大溝を巡らした直径 100m ほどの環濠集落と考えられます。
- ②出土遺物から、野田川流域で初めて成立した弥生集落の 1 つと考えられます。
- ③特に西側の大溝からは数多くの土器片が出土しました。丹後地域の弥生土器を理解する上で、貴重な資料となるでしょう。
- ④今回の調査地は丘陵の南辺近くにあたります。弥生時代前期の集落の中心は、北側にあるものと推測されます。
- ⑤弥生時代前期の集落の後に、後期にも集落が営まれていることもわかりました。
- ⑥現地形では、8 トレンチの東側に段差が認められ、ここが丘陵の端にあたるものと考えられていました。今回の調査で丘陵がさらに西に延びていることがわかりました。温江遺跡の範囲はさらに西に広がるものと考えられます。



第 1 図 調査地位置図（国土地理院 1/25000 大江山・四辻）



第 2 図 調査トレンチ配置図



第 3 図 竪穴式住居復元図



写真 1 6 トレンチ検出竪穴式住居跡



写真2 3トレンチ大溝
溝の深さとその断面形に注目してください

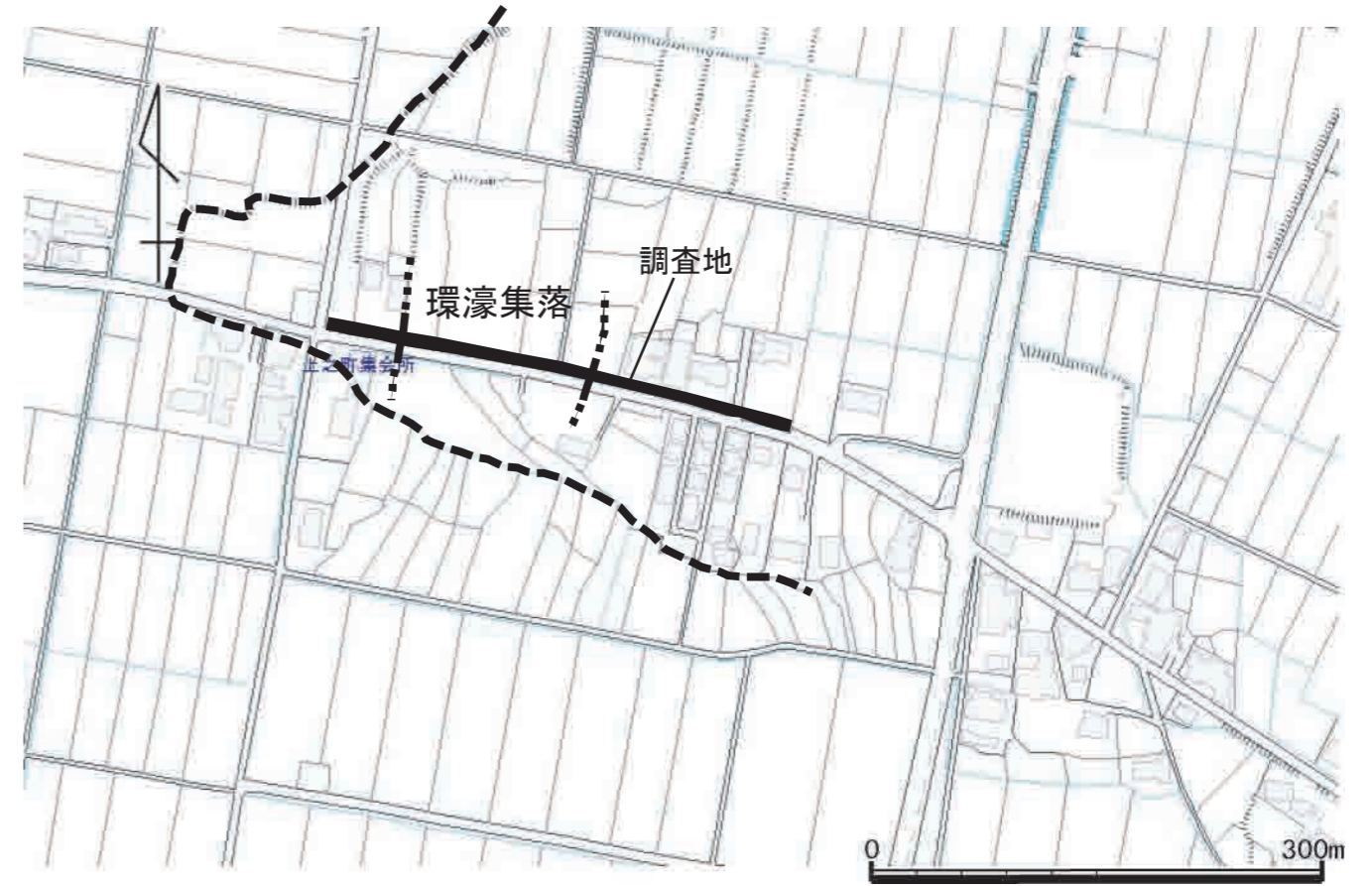


写真3 3トレンチ大溝
人と較べてください、大きな溝です



写真4 7トレンチ大溝
土器がたくさん出土しました

トレンチ	調査の概要
1トレンチ	時期不詳、流路内堆積土を確認
2トレンチ	弥生時代？流路内堆積土を確認
3トレンチ	幅1.8m、深さ1.2mの大溝
4トレンチ	ピット、土坑多数
5トレンチ	ピット、土坑多数、竪穴式住居跡（弥生時代後期）
6トレンチ	ピット、土坑、竪穴式住居跡（弥生時代後期か？）
7トレンチ	幅1.6m以上、深さ1.1mの大溝、竪穴式住居跡（共に弥生時代前期）
8トレンチ	丘陵ベース面を確認



第4図 温江遺跡の環濠位置



第5図 環濠集落の全体
神戸市大開遺跡 弥生時代前期



写真5 5トレンチ検出ピット
たくさんのピットが見つかりました